

住吉東京同窓会&ユーカー会東京支部会が開催される!

昨年に続き、附属住吉の東京同窓会が10月14日(土)に開催されました。また、附属明石中学校の同窓会である「ユーカー会」の東京支部会が11月11日(土)に4年ぶりに開催されました。それぞれの会の様子をレポートします。

住吉東京同窓会@アルカディア市ヶ谷(私学会館)



10月14日(土)、附属住吉の東京同窓会がアルカディア市ヶ谷で開催され、約80名の卒業生が集結しました。また、40年以上前に附属住吉中学校で勤務されていた伊藤維昭先生も来賓として参席され、当時サッカー部の強化に明け暮れた日々などをご紹介されました。

コロナ禍で行われた昨年とは打って変わり、今年はアルコール飲料も提供されたため、思い出話が一段盛り上がりました。さらに、今年には会中に席替えの機会が設けられ、部

活動や在学時の最寄り駅ごとに集まって学年の枠を超えた交流が図られました。

中等からは卒業生4人と齋木副校長が参加しました。最年長者は小学校を昭和18年に卒業された90代の卒業生。非常に幅の広い年代の卒業生が、「附属出身」という唯一かつ強力な繋がりで一室に会することができるのは、とても素敵なことだと改めて感じました。

普段は同年代や同じコミュニティの中で日々を過ごしがちですが、異世代、異分野の方と関わる機会を持つことで視野が広がり、仕事や勉学に対する新たなモチベーションに繋がります。来年も同じく10月頃に東京同窓会が開催される予定ですので、是非多くの中等卒業生に参加してもらえればと思います。

住吉地区の歴史(抜粋)

- 1877年10月 神戸師範学校附属小学校として設立
(現在の神戸市中央区下山手通)
- 1886年4月 兵庫県尋常師範学校附属小学校に改称
その後、改称を繰り返す
- 1899年4月 現在の神戸市東灘区御影中町に移転
- 1938年4月 現在地(神戸市東灘区住吉山手)に移転
- 1947年4月 兵庫県師範学校男子部附属小学校に改称
- 1947年5月 兵庫県師範学校男子部附属中学校が開校
- 1950年5月 神戸大学の附属となり、共学に
- 2011年3月 神戸大学附属住吉中学校 閉校
- 2014年3月 神戸大学附属住吉小学校 閉校

ユーカリ会東京支部会@レストラン アラスカ(日本プレスセンター)



11月11日にレストラン アラスカで5年ぶりに開催されたユーカリ会(附属明石中の同窓会)東京支部会も大盛況でした。御年89歳の附中1回生の先輩も参加されており、住吉の東京同窓会同様とても幅広い年代の卒業生が総勢約60名集まりました。

会の後半には全員が壇上に上がり、近況報告や思い出話を披露。素敵な年の重ね方をされている先輩ばかりでした。最後に附属明石中学校の校

歌を斉唱し、参加者全員が笑顔の中、会が締めくくられました。

次回は2年後に開催が予定されています。こちらも多くの方に参加してもらいたいと思います。

【ユーカリ会の懇親会での一幕】

20年以上前に附属明石中学校で数学の教師をしていたA先生は、ユーカリ会関係の行事の参加者名簿を見て、聞き覚えのなる名前があることに驚いた。その名前の女性は、A先生が大学生の時に参加した合ハイ(合同ハイキング)で一緒になり、以来ずっと忘れることのできないマドンナのような女性であった。あまりない氏名であったため、その時のマドンナで間違いないと確信していた。しかし、その行事の日に見かけることはなく、まして自らその人を探すのは気恥ずかしくて躊躇ってしまった。合ハイの時に皆で撮影した写真は大切に保管していたが、いざ本人と会っても何を話せばいいか分からなかったのだ。

ただ、折角の機会に彼女を探しに行かなかったことを後悔するようになった。

それから月日が経ち、中学校の教え子がユーカリ会で幹事をしていることを知るや、是非そのマドンナに会へ参加してもらおうよう強くお願いした。そして去る12月某日、運よくそのマドンナの都合も合ったことで、ユーカリ会の懇親会にて51年ぶりの再会を果たしたのだ。学生時代の面影を残しつつさらに魅力が増したマドンナと対面し、教え子がその場にいることを忘れて興奮し、顔を真っ赤にしながら半世紀以上前の思い出話に花を咲かせた。

60代になり人生の峠は越えたと思っていたが、何歳になっても人生何が起こるかわからない。青かった学生時代にジェットコースターで滑り落ちていくような気分を味わい、人生の峻に思いを馳せながら飲み交わす酒は一段と身に染みた。

また次に会える約束を取り付けたので、懇親会の日のために新調した鞆に、51年前山頂で一緒に撮った写真を入れて持って行くことになるだろう。

明石地区の歴史(抜粋)

- 1904年10月 兵庫県明石女子師範学校附属幼稚園 開園
- 兵庫県明石女子師範学校附属小学校 開校
(現在の明石市山下町)
- 1943年4月 兵庫師範学校女子附属幼稚園に改称
- 兵庫師範学校女子附属国民学校に改称
- 1947年5月 兵庫県師範学校女子部附属小学校に改称
- 1947年5月 兵庫県師範学校女子部附属中学校 開校
- 1950年5月 神戸大学の附属となり、共学に
- 2011年3月 神戸大学附属明石中学校 閉校
- 2014年3月 神戸大学附属明石小学校 閉校

黒川 祐基 さん [中等2回生]

初めましての方は初めまして。卒業生のみなさん、いかがお過ごしでしょうか！？

2回生の黒川祐基です。時の経過の早さに驚くばかりで、中等教育学校を卒業して早7年が経ちます。光栄なことに、同窓会誌に寄稿することになりましたので、近況を書かせていただきます。

現在、私は東京港大井埠頭や青海埠頭、横浜港南本牧埠頭において商船三井(ONE)・EVERGREEN コンテナ船の荷役を行う会社に勤務しています。今思えば、神戸港や明石海峡が身近にあり、それらが見える環境で育ったことから、海や船に関わる仕事が人生の選択肢の一つに出てきたのかなと思っています。仕事内容を大雑把に書くと、現業職社員(コンテナ機器運転員や港湾労働者など)の労務管理や総務

関係など、現場事務をしています。港湾は『波動性』があるといわれ、コンテナ船が来なければ、仕事はありませんし、コンテナ船が来たとしても、暴風など悪天候であれば、仕事になりません。つまり、日ごとの業務量に如実な差が現れる業界です。事務方なので、現業職社員ほどではないですが、日々業務量が増える中で仕事をしています。もっと文章量を書くスペースがあれば、皆さんに『世の中にはこういう仕事もあるんだなあ』と思って頂けるのですが、限られたスペースですので、お許しください。

仕事の話はさておき、プライベートの話もさせていただきます。11月は兵庫県との繋がりを感ずる1ヶ月でした。まず先日のユウカリ会東京支部会に小黑会長と一緒に参加しました。全体に対して話をする機会を頂き、中等教育学校の現状や卒業生の活躍について、お話をしました。短い時間でしたが、様々な業界で活躍されている先輩方との繋がりをより大切にしたいと思えた有意義な時間でした。東日本エリアの皆さん、住吉同窓会は毎年、明石同窓会は隔年で東京支部会を開催していますので、来年以降ぜひご参加下さい。

そして、東京には兵庫県人会があり、その総会も11月にありました。県人会は兵庫県出身の首都圏居住者等が参加しており、総会や青年会、お酒の会などのイベントの他、ハイキング部やゴルフ部、競馬部等、各々の趣味嗜好それぞれの集まりもある組織です。自分は長田高校同窓会(神撫会)東京支部の皆さんに、特にお世話になっていますが、附属以外且つ自分の業界以外の方々と様々な形で交流できる機会となっています。

大阪で生まれ兵庫で育った自分にとって関西を離れて生活してみたいと思ったことも関西を離れた一つの理由でしたが、離れたからこそ関西の魅力や良さに気付かされたと思っています。これからも関西や兵庫のことを身近に感じられる機会を大切にしたいと思っています。関西を離れている卒業生の皆さんも多くいると思いますが、関西で過ごした時間や離れた時間の長さは人それぞれかと思いますが、時には関西に関わるものに触れる機会を作って懐かしんでみてください。何か新しい発見があるのではない



Yuki Kurokawa

中等2回生。大学4年間を新潟で過ごし、現在は東京在住。東京兵庫県人会などに積極的に参加し、幅広い年代の人と交流している。



屋形船の船上にて

かと思えます。

最後になりますが、皆さんの今後益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。またいつの日かどこかでお会いする機会がありましたら、どうぞ宜しくお願い致します。

卒業生だより

藤川 翔帆さん [中等7回生]

小学校の頃に両親と訪れたマレーシアのボルネオ島やフィリピンのセブ島などの開発途上国の様子が目に焼き付き、SDGsに強い関心を持つようになる。その関心が以前から興味を持っていた英語と結びつき、中等でESS部に入部し、4年生の時に発足されたディベートセクションへも所属した。英語で様々な社会の課題を議論する英語ディベートに打ち込み、多くの英語ディベート大会で賞を受賞した。

その経験を活かして大阪市立大学（現大阪公立大学）経済学部へ大阪市立大学最後の学生として後期日程のユニーク選抜で入学。二回生になり「目的・志に尖った」人材育成を目的とする次世代共創リーダー育成プロジェクトに参加。そこで「自分に何ができるのか」と問うようになる一方で、日本を代表する企業の方々の指導を受ける機会があり「本当に意味のやり取りのできる英語教育」を必要としていることに気付く。

ちょうどその頃、大学で英語で経済学を学ぶ授業を受講し、小説家で映画監督で元シリコンバレーの起業家というさかはら先生に出会う。最初、その経歴を信じるができなかったが、著書の「ピーナッツ一粒ですべてを変える」（集英社）を読み、先生の経営の専門性と人柄に触れる。さかはら先生がかつて、日本では日経新聞がマーケティングを担当し現在多くの教育機関で採用され始めている完全自動口頭英語試験 Versant のビジネス開発の担当をシリコンバレー時代にしていたことを知り、共同創業者にお願いした。起業で成功するためには事情に精通したビジネスパートナーが必要だと思ったからだ。アフリカ、そして、フィリピンなどの開発途上国の人材を確保、そして、早稲田大学原田康也教授など大阪公立大学内外の研究者の支援を取り付ける。また、幾つも学会に参加し、独自に英語教育を研究、これからの時代は「教育から学習」に変わると考えて、「完全にカスタマイズされた英語学習支援コンサルティング」

の会社として株式会社ロジグリッシュを2023年2月1日に設立。まだ二回生だった2023年3月27日、大阪公立大学発ベンチャー学生第一号となる。

現在は海外有数の映像の演出家やエミー賞受賞の海外のニュースプロデューサーとも提携し、「アルファベットから国際的な英語プレゼンテーションまで」をカバーできる英語学習支援体制を構築した。ロジグリッシュは、今のところ決まった商品パッケージと価格は存在しない。また、会社のWEBサイトにわかりやすい商品説明もない。それは完全にカスタマイズされた学習支援コンサルティングを提供しているので、学習者の英語学習歴、学



Kaho Fujikawa

中等7回生。在学時はESS部に所属し、大学では経済学を専攻。ベンチャー企業を立ち上げ、その様子が新聞で取り上げられた。



大学内のオフィス前にて

習環境、学習特性によってアプローチをその時に利用できる最新の技術を駆使しその都度カスタマイズするからである。「『完全にカスタマイズされた』とはどういうことか?」とよく尋ねられるがこの説明は難しい。私は「ロジグリッシュの英語学習支援コンサルティングはカラオケではなくてバンドの前で歌うナマオケなのです。歌い手の声に合わせて音程を変えたりリズムを変えたりするのは当たり前、歌い手がこぶしを効かせたらそのこぶしを大切に活かして自由に学んでもらえるようにサポートするので」と答えることにしている。

日本の英語力を改善することで日本の社会に、仕事を開発途上国に創出することで、世界に貢献したい。そして、将来、次世代の起業家の手本になれるように頑張りたい。



起業したことが毎日新聞で
取り上げられました

～同窓会からのお知らせ～

■ 本広報誌に関するお問い合わせ：『陽菊-ひなぎく-』のバックナンバーを学校 HP に掲載していただいています。是非ご覧ください>> <https://www.edu.kobe-u.ac.jp/kuss-top/current/alumni/association/>

寄付のお願い

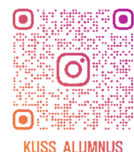
母校の教育活動の支援のため、寄付へのご協力よろしく申し上げます。

附属学校部 HP：<http://www.schools.kobe-u.ac.jp/donations.html>



SNS で情報発信中！

Instagram、Xで同窓会関係の情報を発信しています！フォローお願いします



KUSS_ALUMNUS



@kuss_alumnus

学校 NEWS 短 信

宿泊行事が復活。5 年生(11 回生)は北海道、3 年生(13 回生)は沖縄へ

感染症対策下で制限されていた宿泊行事が復活し、5 年生は 10 月 2 日～5 日に北海道へ修学旅行に、3 年生は同期間に沖縄へ研修旅行に赴きました。それぞれ、生徒が中心となって企画・運営を行い、現地の観光を楽しみつつ、多くの学びもある充実した 4 日間を過ごしたようです。

物理オリンピック国際大会の日本代表候補に選ばれる

11 回生の藤野大基さんが全国物理コンテスト 物理チャレンジ 2023 全国大会にて優良賞を獲得。高校 2 年生以下の成績優秀者として

2024 年物理オリンピック国際大会の日本代表選手候補者に選抜されました。今後、合宿を経て最終選考に挑みます。

その他にも在校生が大活躍

その他にも様々な大会で、中等生が大活躍しています。その一部を紹介します。

- ・ 数学・理科甲子園 2023 (兵庫県の大会) で優勝 (11、12 回生の計 6 名のチームで)
- ・ 中・高生 探求の集い 2023 (関西学院高等部主催) でコンテスト部門 1 位 (11 回生)
- ・ 中学生・高校生 データサイエンスコンテスト (神戸大学数理・データサイエンスセンター主催) で最優秀賞 (11 回生 2 名)
- ・ 全国高等学校生徒英作文コンテストで入選 (11 回生、12 回生)

次号で在校生の活躍を詳しくお伝えします。

先生だより

奥村 暁先生

卒業生の皆さん、こんにちは。元気しておりますでしょうか。

ついに自分にもこの「先生だより」がまわってきて驚くとともに、同窓会広報を盛り上げてくれている同窓会幹事の皆様に頭が下がります。

自分は今、15回生（1年生）の担任をしています。クラスの生徒に思い出話をするときふと気づいたのですが、実は附属に赴任して実は10年がたとうとしているのです！気持ちはまだまだ新米なのですが・・・最近就職の報告に来てくれている4回生や5回生の話を聞いていると、時の流れの速さを痛感します。これだけ、時間の流れが速いのもめまぐるしく環境が変わっているせいかもしれません。

特に大きかったのは新型コロナウイルスの蔓延で、「前例通り」が通用しない数年を過ごさなければなりません。日々、自分の大事にしていた価値観が否定され、悔しく辛い日々でしたが、なんとか泥だらけになりながら前に進んでいます。

ですが、冷静に考えると自分が附属に赴任してきてから、「前例通り」のことなんて一回もなかったですよ。この無茶苦茶な数年間をなんとか乗り越えられたのは「附属らしさ」があったかもしれません。

附属での教員生活で、特筆すべきは歴史総合（歴史基礎）の研究開発とコーラス部の顧問を引き受けた事でしょうか。歴史総合についてはついに昨年度から全国の学校で実施が始まっています。皆さんと試行錯誤した科目がついに正式に始まった事はとても嬉しいです。

コーラス部については、卒業生の皆さんから、よく森瀬先生がいないコーラス部はどうなっているのかと聞かれることがあります。学校だけでなく、コーラス部も少しずつ新しい形へ変わっていています。（もちろん今でも外部指導員として、森瀬先生にもお世話になりながらです！）

自分も何度か全国大会の舞台を経験させてもらい普通では考えられない経験をさせてもらっています。現在は、男子部員が10名以上に増え、コンクールにも混声で出場するようになり、これからが楽しみです。

「伝統を大切にしながら新しい形」へ、「卒業生が帰ってこれる場所であり、未来の附属生が自分らしく過ごせる場」へ、コーラス部だけでなく附属の目指す大事な方向性だと思っています。卒業生の皆さんと、現在・未来の附属生を「繋ぐ」ことが自分の使命だと勝手に思っています。だから、いつでも学校に戻ってきてくださいね。どうか心と体を大切に。

【編集後記】

今号も多くの人の縁が積み重なり、充実した誌面が完成しました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。時間が経つと物事の感じ方、捉え方は自ずと変化していきますが、その中で変わらない地元や母校などへの想い、憧れの暖かさに触れられた素敵な2023年の第40でした。

2024年も全国の卒業生にとって素晴らしい一年になりますように、今年もおつかれ生でした。

（次号は2024年3月31日発行予定です）



Akira Okumura

2014年4月着任当初からコーラス部の顧問を務める。また、多くの学年で社会の授業を担当し、「歴史総合」の研究開発も行っている。